

2024年7月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)



2024年3月15日

上場会社名 株式会社クラシコム 上場取引所 東
コード番号 7110 URL https://kurashi.com/
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 青木 耕平
問合せ先責任者 (役職名) 取締役CFO (氏名) 山口 揚平 (TEL) 042-577-0486
四半期報告書提出予定日 2024年3月15日 配当支払開始予定日 —
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト・個人投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2024年7月期第2四半期の連結業績(2023年8月1日~2024年1月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に 帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年7月期第2四半期	3,583	—	683	—	654	—	714	—	462	—
2023年7月期第2四半期	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(注) 包括利益 2024年7月期第2四半期 462百万円(—%) 2023年7月期第2四半期 一百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年7月期第2四半期	62.70	—
2023年7月期第2四半期	—	—

(注) 1. 当社は、2024年7月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2023年7月期第2四半期の数値及び対前年同四半期増減率並びに2024年7月期第2四半期の対前年同四半期増減率については記載しておりません。

2. EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年7月期第2四半期	5,375	4,403	81.9
2023年7月期	—	—	—

(参考) 自己資本 2024年7月期第2四半期 4,403百万円 2023年7月期 一百万円

(注) 2024年7月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、2023年7月期の数値については記載しておりません。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年7月期	—	0.00	—	45.00	45.00
2024年7月期	—	0.00	—	—	—
2024年7月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2. 2024年7月期の期末配当予想につきましては、現時点においては未定としております。詳細は、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

3. 2024年7月期の連結業績予想(2023年8月1日~2024年7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		経常利益		親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭
通期	6,835	—	1,025	—	945	—	960	—	635	86.09

(注) 1. 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2. 2024年7月期第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、対前期増減率については記載しておりません。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社(社名) 一、除外 一社(社名) 一

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有

(注) 詳細は、添付資料P. 9「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)」をご覧ください。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

2024年7月期2Q	7,370,400株	2023年7月期	7,370,400株
2024年7月期2Q	46株	2023年7月期	46株
2024年7月期2Q	7,370,354株	2023年7月期2Q	7,298,952株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は、業況の変化により予想数値と異なる可能性がございます。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等につきましては、添付資料P. 4「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(決算補足説明資料の入手方法)

当社は、2024年3月15日に機関投資家・アナリスト・個人投資家向けの会社説明会を開催する予定です。この説明会で使用する資料については、TDnetで開示するとともに、当社ホームページに掲載いたします。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当社グループは、「フィットする暮らし、つくろう」というミッションを掲げ、当社グループが提案する世界観（ライフカルチャー）に共感する人たちのWell-beingを実現することに貢献します。Well-beingに欠かせない要件の一つとして「自分の生き方を自分らしいと感じ、満足できること」＝「フィットする暮らし」だと考え、事業活動を通じて多くの人の「フィットする暮らし」づくりに貢献し、Well-beingな人が大勢いる「心地よい社会」の実現の一助になることを目指しています。

当社は、2023年8月1日に株式会社foufouの全株式を取得し、同社が連結子会社となったことに伴い、報告セグメントの区分変更を行っております。当社は従来からライフカルチャープラットフォーム事業という、世界観でユーザーと繋がるユニークな事業を展開しており、連結子会社となった株式会社foufouにおいてもその事業構造は基本的に同じであると考えておりますが、投資判断に資する適切な情報を開示する観点から、第1四半期連結累計期間より以下2つの報告セグメントでの開示に変更しております。

① 北欧、暮らしの道具店

当社グループでは、「北欧、暮らしの道具店」の提供している世界観に共感するユーザーに対し、商品、記事、動画など様々なコンテンツを提供することによって、多くの人の「フィットする暮らし」づくりに貢献しております。なお、ビジネスラインとして「D2Cドメイン」「ブランドソリューションドメイン」を有しております。

D2Cドメインでは、暮らしにフィットする商品を販売しております。取扱商品は、アパレル、キッチン、インテリア雑貨が主力であり、自社企画のオリジナル商品が売上の約半分を占めております。また、「北欧、暮らしの道具店」のライフカルチャーを表現する記事や動画等のコンテンツを、自社サイトやSNS等の多様なチャンネルから配信するコンテンツパブリッシャーとしての側面も有しております。

ブランドソリューションドメインは、「北欧、暮らしの道具店」の強いブランドとコアな顧客基盤に加え、D2Cドメインのコンテンツパブリッシングで培った高い企画制作能力を活用し、クライアント企業のブランディング上の課題に対する総合的なマーケティング・ソリューションを提供する、ブランディングエージェンシーとしての事業ドメインです。ナショナルブランドを中心に、多くのブランドを継続的に支援しております。

② foufou

当社グループでは、2016年デザイナーのマール・コウサカ氏が設立したファッションD2Cブランド「foufou」を展開しております。「健康的な消費のために」というブランドコンセプトを掲げ、「foufou」の世界観を表現するコンテンツをSNSで発信して、ユーザーのエンゲージメントを最大化し、購入につなげ、リピーター化する特徴を持つファッションブランドであり、洋服だけでなく、時計や革製品などのファッション雑貨も取り扱っております。

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。なお、当社は2024年7月期第1四半期より、連結決算に移行しており、同第1四半期より四半期連結財務諸表を作成しているため、前年同四半期及び前期末との比較分析は行っていません。

当第2四半期連結累計期間は、円安や原材料高といった原因から国内消費者物価指数が前年同月を上回り、実質賃金は前年同月を下回る状況が続いております。また、家計調査によると二人以上の世帯の実質消費支出は、特に当社グループの取扱商品に近い「家具・家事用品」「被服及び履物」の費目が前年を下回る状況が続いていることから当社グループを取り巻く事業環境は厳しいものと捉えております。さらにアパレルカテゴリーでは、残暑の長期化や暖冬といった例年とは異なる気候影響も受けました。

様々な外部環境影響がある状況下ではありましたが、「北欧、暮らしの道具店」は、新商品を積極的に展開するとともに、新しいカテゴリーの開発にも継続的に取り組んでおります。新感覚のトークバラエティへの挑戦や初の試着会の開催を実施するなど、コンテンツや施策によってお客様との繋がりを作り、深めるための新たな取り組みにも挑戦しました。

「foufou」は、2023年8月1日に組織再編により事業を分離したうえで当社グループに加わったため、まずは安定した業務体制の構築を優先して運営を行ってまいりました。オフィス移転や物流・システムの移行、業績管理・在庫管理体制の構築、原価計算の適正化による価格設定の見直しなど、これからの持続的な事業成長のための体制への移行を進めております。

以上の理由から、当第2四半期連結累計期間における売上高は3,583,440千円、売上総利益は1,553,930千円、EBITDAは683,326千円(※)、営業利益は654,817千円、経常利益は714,862千円、親会社株主に帰属する四半期純利益は462,131千円となりました。

(※) EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却額

セグメント別の経営成績は、以下のとおりであります。

(北欧、暮らしの道具店)

「北欧、暮らしの道具店」は、お客様との直接的な接点を持ち、今後の商品・コンテンツ開発における多くのヒントを得た初の試着会の開催や、コラボ商品、定番商品に新素材を取り入れた「秋いちボトムス」、暖冬にもかかわらず完売したアウター等、オリジナルブランドの新作商品が続々と大ヒットし、売上伸長と来期以降の需要拡大に向けてチャレンジし続けた上半期となりました。初のオリジナルスキンケア商品「シンボリックオイルインミスト」は、発売直後から大反響を呼びリピート購入多数で、初回入荷分はわずか1カ月で完売する等、コスメは売上成長を支える可能性のあるカテゴリとして順調に進捗しております。また、「人生後半」をテーマにした新感覚のトークバラエティ「あさってのモノサシ」を公開し、幅広い世代から支持され、公開から1カ月で20万回超再生される大人気コンテンツとなりました。

これらの取り組みやエンゲージメントチャンネルへの継続投資によって、エンゲージメントアカウント数は順調に増加し、公式スマートフォンアプリ(iOS/Android)は、当第2四半期連結会計期間末日現在、累計約348万ダウンロードとなりました。当第2四半期連結累計期間におけるアプリ経由の注文数は既に「北欧、暮らしの道具店」全体の約67%を占めております。

ブランドソリューションドメインは、YouTube、Instagramの動画や投稿で再生数を伸ばし商品のブランディングに貢献した森永乳業「パルメザンチーズ」との取り組み等、案件数・売上は順調に推移いたしました。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における「北欧、暮らしの道具店」セグメントの売上高は3,377,746千円、EBITDAは645,023千円となりました。

(foufou)

「foufou」は、まずは安定した業務体制の構築を優先して運営を行いました。オフィス移転や物流・システムの移行、業績管理・在庫管理体制の構築、原価計算の適正化による価格設定の見直し、在庫健全化のための初のセールの実施等、これからの持続的な事業成長のための体制への移行を進めております。また、そうした中でも、デンマークの老舗ブランド「アルネ・ヤコブセン」の名作デザインとのコラボレーションや、国内の限られた職人にしか製造できないバッグ、ベルト等の革小物、今年3年目となる干支にちなんだスカジャンが完売する等、定番商品に加え、新たな取り組みにより商品展開の幅が広がっております。

以上の結果、当第2四半期連結累計期間における「foufou」セグメントの売上高は205,694千円、EBITDAは38,303千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第2四半期連結会計期間末における資産総額は、5,375,327千円となりました。主な内訳は、現金及び預金3,958,113千円、売掛金384,878千円、商品438,586千円であります。

(負債)

当第2四半期連結会計期間末における負債総額は、972,109千円となりました。主な内訳は、買掛金245,485千円、未払法人税等252,503千円、長期借入金(1年内返済予定を含む。)184,443千円であります。

(純資産)

当第2四半期連結会計期間末における純資産は、4,403,217千円となりました。主な内訳は、利益剰余金3,127,544千円であります。

自己資本比率は81.9%と財務的健全性を維持しております。

② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物(以下、「資金」という。)は、3,958,113千円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は、334,151千円となりました。これは主に、税金等調整前四半期純利益の計上714,862千円、仕入債務の増加額120,630千円等による増加要因と、法人税等の支払額156,540千円、売上債権の増加額221,431千円、棚卸資産の増加額131,445千円等による減少要因によるものであります。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果支出した資金は、349,445千円となりました。これは主に、連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出299,874千円によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果支出した資金は、363,331千円となりました。これは主に、配当金の支払額331,665千円によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第2四半期連結累計期間においては、概ね計画どおり順調に推移していることから、現時点では、2023年9月14日に「連結決算への移行に伴う連結業績予想の公表に関するお知らせ」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

当社ではTSR(株主総利回り)を重視した株主還元を行う方針とし、成長と株主還元のバランスを考慮したダイナミックな株主還元を行う事でTSRの安定を図る事を目指します。B/Sマネジメントからの最適配当政策が適切であると認識しており、安定した経営に必要なキャッシュポジションの観点から還元可否の判断を行います。また、投資局面においては投資を優先する必要があるため、配当原資は利益ではなくFCF(フリーキャッシュフロー)を基準とし、当面はその50%を上限とします。これにより株主還元、成長投資、内部留保による財務基盤の強化のバランスの取れた配分が可能になると考えております。

具体的には、期末ネットキャッシュ(現金及び預金-借入金)とキャッシュポジションの目標水準(広告宣伝費を除く当期販売費及び一般管理費の2年分)を比較し、キャッシュポジションが目標水準を上回っている場合には、還元可と判断します。その上で当期FCFの50%を原資に還元を行います。また、キャッシュポジションが目標を下回らない範囲で行うため、FCFの50%が上限となります。また、FCFを原資とするため、キャッシュポジションにより還元可と判断されても当期FCFがマイナスの場合は、株主還元は行いません。

2024年7月期においても、上記還元方針に従い配当や自己株式取得などの手法によって株主還元を行う予定であり、適切なタイミングで内容と規模の予想について公表してまいります。なお、当社の株主還元方針は現在の経営環境において合理性のあるものと判断しておりますが、状況変化や期待する効果に対する今後の評価などにより適宜見直しを行い変更する可能性があります。変更する場合には、その内容等を適時に説明いたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

当第2四半期連結会計期間 (2024年1月31日)	
資産の部	
流動資産	
現金及び預金	3,958,113
売掛金	384,878
商品	438,586
仕掛品	1,436
原材料	5,274
その他	41,285
流動資産合計	4,829,575
固定資産	
有形固定資産	83,531
無形固定資産	
のれん	204,663
その他	67,944
無形固定資産合計	272,607
投資その他の資産	189,612
固定資産合計	545,752
資産合計	5,375,327
負債の部	
流動負債	
買掛金	245,485
1年内返済予定の長期借入金	58,332
未払法人税等	252,503
その他	289,678
流動負債合計	845,998
固定負債	
長期借入金	126,111
固定負債合計	126,111
負債合計	972,109
純資産の部	
株主資本	
資本金	100,000
資本剰余金	1,175,730
利益剰余金	3,127,544
自己株式	△56
株主資本合計	4,403,217
純資産合計	4,403,217
負債純資産合計	5,375,327

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	当第2四半期連結累計期間 (自2023年8月1日 至2024年1月31日)
売上高	3,583,440
売上原価	2,029,509
売上総利益	1,553,930
販売費及び一般管理費	899,112
営業利益	654,817
営業外収益	
受取利息	21
配信料収入	6,397
保険解約返戻金	52,489
その他	1,718
営業外収益合計	60,626
営業外費用	
支払利息	512
その他	68
営業外費用合計	581
経常利益	714,862
税金等調整前四半期純利益	714,862
法人税等	252,731
四半期純利益	462,131
親会社株主に帰属する四半期純利益	462,131

四半期連結包括利益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

当第2四半期連結累計期間
(自 2023年8月1日
至 2024年1月31日)

四半期純利益	462,131
四半期包括利益	462,131
(内訳)	
親会社株主に係る四半期包括利益	462,131

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)	
当第2四半期連結累計期間 (自 2023年8月1日 至 2024年1月31日)	
営業活動によるキャッシュ・フロー	
税金等調整前四半期純利益	714,862
減価償却費	17,737
のれん償却額	10,771
受取利息	△21
配信料収入	△6,397
保険解約返戻金	△52,489
支払利息	512
売上債権の増減額 (△は増加)	△221,431
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△131,445
仕入債務の増減額 (△は減少)	120,630
未払金の増減額 (△は減少)	△8,953
未払費用の増減額 (△は減少)	7,523
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△1,642
その他	△17,105
小計	432,554
利息及び配当金の受取額	21
利息の支払額	△512
配信料の受取額	6,140
保険解約返戻金の受取額	52,489
法人税等の支払額	△156,540
営業活動によるキャッシュ・フロー	334,151
投資活動によるキャッシュ・フロー	
有形固定資産の取得による支出	△22,900
無形固定資産の取得による支出	△1,600
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△299,874
敷金及び保証金の差入による支出	△25,069
投資活動によるキャッシュ・フロー	△349,445
財務活動によるキャッシュ・フロー	
長期借入金の返済による支出	△31,666
配当金の支払額	△331,665
財務活動によるキャッシュ・フロー	△363,331
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△378,625
現金及び現金同等物の期首残高	4,336,738
現金及び現金同等物の四半期末残高	3,958,113

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、2023年10月27日開催の定時株主総会の決議に基づき、2023年12月15日付で減資の効力が発生し、資本金の額332,841千円を減少し、その他資本剰余金に振り替えております。

この結果、当第2四半期連結会計期間末において資本金が100,000千円、資本剰余金が1,175,730千円となっております。

なお、株主資本の合計金額への影響はありません。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第2四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。